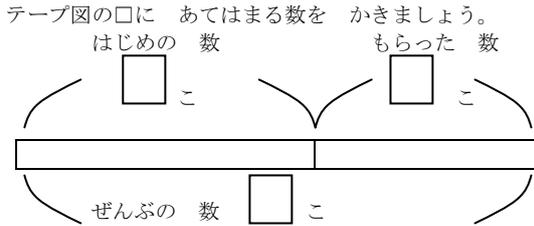


評価問題例

テープ図にわかっている数量を書き入れる問題である。

算数 「かくれた数は いくつ」

① みかんを 6こ もらったので、20こになりました。はじめは なんこ ありましたか。

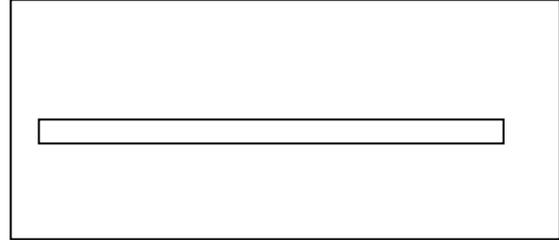


(しき)

こたえ □ こ

② おりがみを 12まい もらったので、40まいになりました。はじめは なんまい もって いましたか。

テープ図を かんせい させましょう。



(しき)

こたえ □ まい

- ふりかえり ① 自分のかんがえを図やことばで書くことができた。 (◎ ○ △)
 ② 自分のかんがえを図などを使いながら、話すことができた。 (◎ ○ △)

児童自身が、学びのめあてを意識し、次時に目標もつための自己評価欄である。

テープの長さが数量関係を表していることに気付かせたい問題である。

評価問題のポイント

問題①では、□にわかっている数量を書き入れてテープ図を完成させる問題である。この問題を通して、テープ図に数量関係を書き込むと立式の手がかりとなるということに気付かせる。

問題②は、何も書いていないテープ図に、数量を各自で考えて当てはめていく問題である。ここでは、テープの長さなどをよく見て数量を書き入れるようにさせる。また、分かっていることを、数字だけではなく、「～の数」のように言葉で考えさせるようにする。言葉で表すことが苦手な児童には、立式をした際に、言葉を使った式に直させるなどの手立てが考えられる。

さらに、自分の学びを振り返り、次時のめあてを一人一人の児童がもつことができるように自己評価欄を設けている。評価問題例では、簡単なチェックの方法を示したが、本時の展開に示したように、各自のノートに文章化させることも一つの方法である。児童の実態や授業の展開に合わせて工夫する。